

産山小中学校 第9学年 道徳学習指導案

日 時：平成21年7月9日（木）

場 所：産山中学校 第9学年教室

授業者：教諭 堀尾光二

- 1 主題名 地域社会の一員としての自覚を持って郷土を見つめよう。 4－（8）
資料名「あついぞ！熊谷」（教育出版）

2 主題について

(1) 主題設定の理由

本主題は、「地域の一員としての自覚を持って郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める」ことをねらいとしている。人間は、みな生まれ育った故郷を持っている。その故郷にはぐくまれてきた伝統や文化に触れ、体験することで、地域社会の一員としての自覚が生まれ、郷土を大切にしようとする心や態度もはぐくまれる。しかし、中学生のこの時期は、自我の確立を強くするあまり、ともすれば、自分が自分だけで存在していると考えがちである。このような中で、自分だけで存在しているのではなく、家族や地域の人々によって支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことであると考え本主題を設定した。

本主題を扱う上で、教科や特別活動、総合的な学習の時間（うぶやま学）等と道徳の時間の関連を明らかにしながら学習を進めていく。特に、今回は総合的な学習の時間（うぶやま学）との関連を密にしながら、郷土に対する自分の思いを探究していきたい。

(2) 生徒の実態は以下のとおりである。（在籍数24名）

本学年に関する実態調査の結果を以下の表に示す。「産山村のことが好きですか？」と質問し、「好き」と答えた生徒が19名、「好きではない」と答えた生徒が5名であった。好きと答えた理由には、「自然がたくさんあるから」と答えた生徒が最も多く、他にも「人がいいから」、「自分が生まれ育った場所だから」と答えた生徒もいた。多くの生徒が「好き」だと答えているのに対して、「将来、産山で生活をしたいと思いますか？」の質問には、多くの生徒が「いいえ」と答えている。生徒は郷土を大切にしたいという思いを持ちながら、郷土とのかかわり方に不安をいだいていると考えられる。そのため、地域の一員としての自覚を持ちながら、郷土とどうにかかわっていくかを考えさせることが必要となる。資料に出てくる主人公が高校生だった頃の気持ちと重なる部分があると思うので、このことを導入部分で示し、生徒に課題意識を持たせたい。

	質 問 内 容	はい	いいえ
①	あなたは産山村のことを誇りに思いますか？	22	2
②	あなたは産山村のことが好きですか？	19	5
③	地域の伝統や文化を大切にしていきたいと思っていますか？	21	3
④	地域の行事やお祭りなどに進んで参加していますか？	16	8
⑤	将来、産山で生活をしたいと思いますか？	7	17

(3) 資料について

主人公の貴志は、高校を卒業して8年間故郷である熊谷に帰っていない。そんな彼のもとに祖父の入院の知らせが入る。あわてて、仕事の休みをとり帰省した貴志は、しばらく店を手伝うことに

なる。そんな中で、熊谷の人々が「あついぞ！熊谷」の取組等でがんばっていることを知らされる。貴志は、8年ぶりに見る故郷の姿から、これまでの故郷に対する思いや自分の生き方について考えを新たにします。

中学校3年生の生徒は、今、進路選択について考えようとしている。そのような時期に主人公の立場に自分を置き換えながら心情に迫ることは意義あることである。その中で、自分自身の生き方を見つめ、郷土に対する心情を高めることができるものと考えている。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 課題解決学習の工夫について

ア 総合単元課題「自分の生き方を考える」を設定し、総合的な学習の時間（うぶやま学）との関連を中心に、意図的計画的に教科・領域等とも関連させ、生徒の課題意識を高める。

イ 資料の熊谷市については、写真を用い簡単な情報を与え、資料の中でそこに住む人びとの思いについて考えさせたい。

ウ 資料を読む前に「自分の故郷を出ていった貴志の生き方について考えていこう」という、学習課題を提示し、課題意識の共通化を図る。

エ 本時の導入では、うぶやま学の「子ども議会」（産山村の未来と自分の生き方について考える）での学習を想起させ、生徒の郷土に対する考えを引き出し、課題意識につなげる。

オ 価値の追求の場面では、主人公の心の動きが分かるようにキーワードとなる言葉をプロジェクトで映しながら、生徒の資料理解を助け問題場면을明らかにしていく。

② 思考の場の工夫について

ア 資料の要点をプロジェクトで常時映しておくことで、生徒の思考のサポートをする。

イ 「故郷の熊谷に帰らずに、このマチでもう一度暮らしてみようとしている貴志」について考える場面では、グループでの話し合いなどを通してお互いの考えを深めさせる。

ウ 地域で活躍されているゲストティーチャーの話を聞くことで、自己の生き方についての考えを深める。

③ 評価活動の工夫について

ア 総合単元的な道徳学習を通して、事前調査時と道徳の時間における学習シートへの記述や発表内容を比較・検討し、評価に生かす。

イ 日常生活や体験活動などとの関連を図りながら、生徒を多面的に理解することにより、生徒一人一人に個に応じた支援を行っていく。

〈人権教育の視点〉

以下のような、人権教育の視点に立って授業を進めたい。

①自分の考えを自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

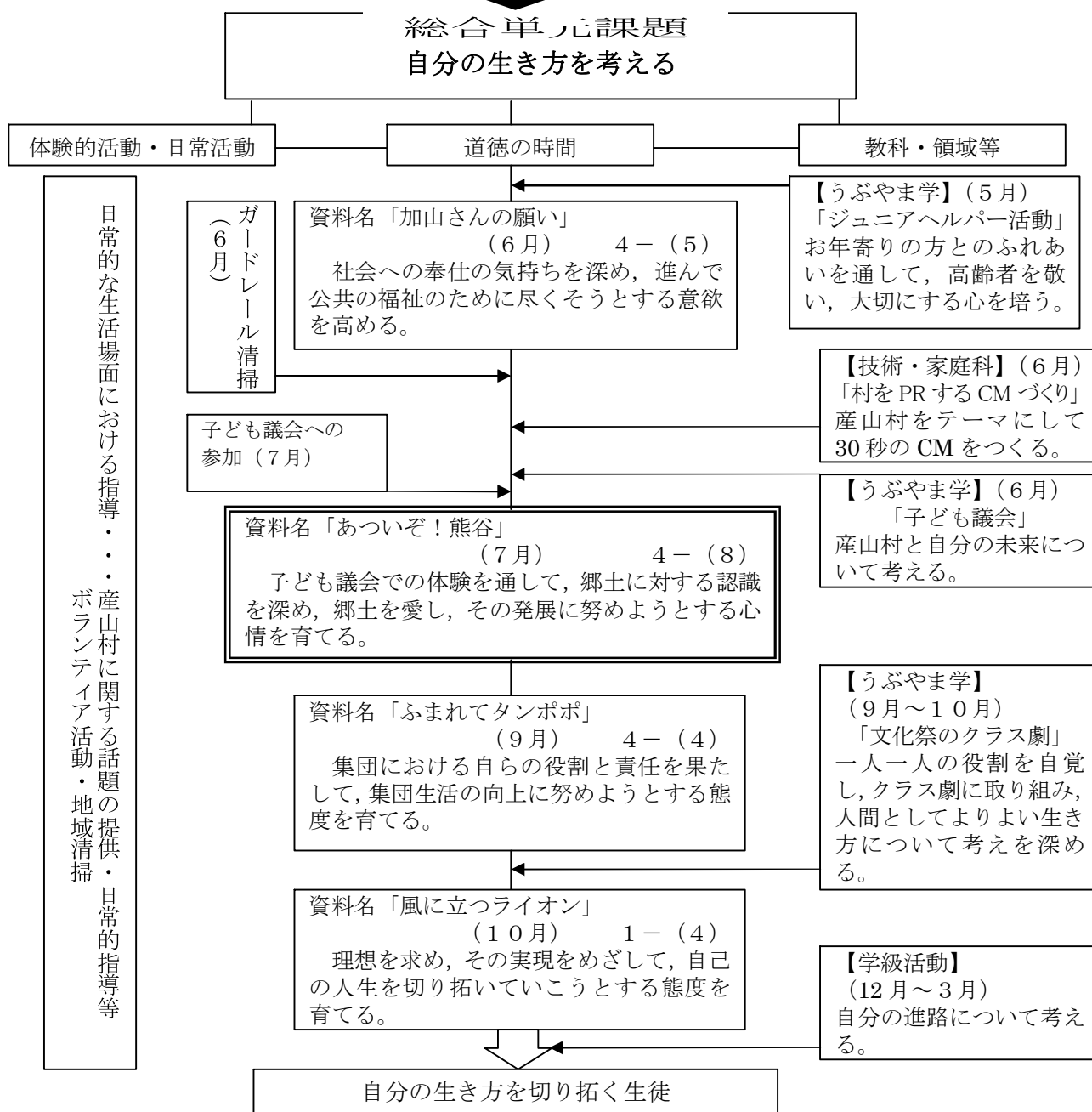
②自分の考えだけでなく、他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 総合単元的な道徳学習の計画 (5月～10月)

学校教育目標	知識基盤社会を生き抜く、豊かな心と創造性に満ちた「人間力」の育成	道徳教育の目標	1 基本的な生活習慣を育成する。 2 自主的に考え、自律的に判断し、行動できる生徒を育成する。 3 人間尊重の精神及び生命を大切に作る心を育てる。 4 学校を愛し、地域の伝統文化の継承発展に尽くし、さらに平和な国際社会の建設に貢献できる態度を育てる。
--------	----------------------------------	---------	--

第9学年道徳教育重点目標	最高学年としての自覚を持ち、自己を見つめ、生き方を切り拓いていく人生観や世界観を持つ。 1－(4)
--------------	---

総合单元名	ね ら い	中心項目 1－(4) 理想の実現
自分の生き方を切り拓く	学ぶことや人間、社会の在り方について探求し続け、生きることについての意味を見だし、目標を持ち、よりよく生きようとする積極的な態度を育てる。	関連項目 4－(4) 役割と責任 4－(5) 勤労奉仕 4－(8) 郷土愛



4 本時の学習

(1) 目標

自分の生まれ育った故郷を見つめ直し、地域社会の一員として、故郷に誇りを持って生きようとする心情を養う。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	教師の支援	備考
意識化	5	1 学習への意欲を高め、課題意識を持つ。	○産山村についてのアンケート結果を見てください。	○アンケート結果を元に学習への課題意識を持たせる。 ○産山と熊谷の写真を対比させる。	アンケート結果写真
価値の追求・把握	25	2 資料「あついぞ！熊谷」を読んで考える。 (1)資料の内容を確認する。	自分の故郷を出ていった貴志の生き方について考えていこう。 ○父や祖父から期待されていることを知っていながら、町を出て行った貴志をどう思いますか？ ・店を継ぐつもりもなかったのだからしょうがない。 ・家族に期待されているのは分かっているのだから、もう少し考えた方がいい。 ○今暮らしているマチが自分のマチという気持ちになれないのはなぜだろう？ ・自分にとって大事なものが見つからないから。 ・このマチでなければならないものが、このマチにはないから。	○課題意識の共通化を図る。 ○貴志の熊谷に対する思いの変化が分かるようにポイントを板書する。 ○貴志の行動を理解できる、理解できないのかを明確にし、その理由を書かせる。 ○机間指導により生徒の考えを把握して、意図的な指名をすることで多様な考え方を引き出し、お互いの考えを深めていく。 ○前の発問と対比させ、自分の意志で町を出て行ったにも関わらず、貴志が今のマチを自分のマチと思っていないことに着目させ、その理由を考えさせる。	資料 ワークシート
		(2)町を出て行った貴志の行動について考える。 (3)今住んでいるマチで、もう一度暮らしてみようという気持ちになっている貴志について考える。	○故郷の熊谷に帰らずに、このマチでもう一度暮らしてみようとしている貴志をどう思いますか？ ・熊谷に帰った方がいいと思う。 ・今住んでいるマチで誇りに思えるものを探して頑張ろうとするのはすごい。 【補助発問】 ○貴志をもう一度頑張ろうという気持ちにさせたものは何か？ ・熊谷の頑張っている姿	○個人で考え、その後6人のグループに分かれて意見交換をして、代表者に発表させる。 ○初めの発問と同じように自分で価値判断をした上で、話し合い活動に入らせる。 ○話し合い活動では、机間指導を行い必要に応じて助言を行う。 ○故郷の存在や人々が貴志の心の支えになっていることに気付かせる。	ワークシート
価値の自覚化	15	(4)故郷との関わりを踏まえた自分の生き方を考える。	○自分の故郷である産山村とどう関わって生きていこうと思いますか？ ・自分がやってみたいことは村外にあるので、ここで学んだことを大事にしながら、それが達成できるように頑張っていきたい。	故郷を大切に思い、故郷に誇りを持って、頑張って生きていこうとする気持ちをまとめている。	ワークシート
意欲化	5	3 ゲストティーチャーの話を聞く。		○産山村を活性化するための取組やその思いを感じ取らせる。	GT (地域の方)